第1章

マンガ「オーディオ装置物語」

むかーし昔，その昔，
レコードなんてものがあったのよ

西村 康 Yasushi Nishimura

図1　オーディオ装置のある部屋で一人でくつろぐことはあまりしなくなった

MP3プレーヤやスマートホン，タブレット端末などに何百曲という音楽データを入れて持ち歩くのが当たり前の時代になりました．1万円を超えるヘッドホンを次々と試す人も大勢います．いい音楽をいつでもどこでもいい音で聞きたいという欲求は，今も昔も同じです．

一昔前は，大きなオーディオ装置が置かれた部屋で一人くつろぐのが楽しみの一つだったりしたものですが，最近はメールをチェックしたり，ウェブサイトを見たり，パソコン中心に過ごす人のほうが圧倒的に多そうです(**図1**)．

ふだんみなさんが使っているパソコンや，急増中のiPadのような携帯型パソコン(タブレット端末)は，分解能24ビット，サンプリング周波数96 kHzの音源を再生できる，CDプレーヤよりも高性能な音声再生装置です．そして，USBやイーサネットなどの標準インターフェースを利用した高性能なオーディオ再生装置が増えています．

CDプレーヤではなく，パソコンやタブレットを音源とする新しいオーディオの世界が今まさに広がろうとしています．　〈編集部〉

オーディオの歴史

■ 節目その1(1940年)…オーディオ・ブームの始まり

● オーディオにするか，それとも車にするか

1940年から70年代初頭にかけて，東京通信工業(現：ソニー)，福音電機(現パイオニア)，日本ビクター＆トリオ(現JVCケンウッド)，オンキヨー，山水電気など，国内では多くのオーディオ専業メーカが誕生しました(**図2**)．東芝，日立，松下電器(現パナソニック)，シャープといった総合家電メーカも，Aurex，Lo-D，Technics，Optonicaといったオーディオ専用のブラ